

## 採卵鶏の育成期における制限給餌試験

古賀芳文・森 静雄・島松亀久雄 (佐賀県畜産試験場)

Yoshifumi KOGA, Shizuo MORI and Kikuo SHIMAMATU: Effect of Restricted Feeding for Layers' Growth Stage

採卵鶏の育成後期における制限給餌の方法が成鶏期の生産性に及ぼす影響を調査し、効率的な制限給餌の方法について検討したので報告する。

### 1. 試験方法

1) 試験期間及び区分 供試鶏は1985年5月餌付けの外国鶏を用い、試験期間は71~150日齢を育成期, 151~420日齢を成鶏期とした。区分は、77~105日齢まで外国鶏管理マニュアルの80%給与, 106~140日齢まで100%給与の定量区と127日齢より133日齢まで給水のみを絶食区を設定し、常時不断給餌の対照区と比較した。

2) 給与飼料及び飼養管理 餌付より28日齢まで育すう前期用, 70日齢まで同中期用, 150日齢まで同後期用飼料を給与し, 151日齢以降成鶏用飼料 (CP 17.0%, ME2,800Kcal) を不断給与した。また飼養管理は、餌付より21日齢まで電熱バタリー育すう機, 60日齢まで奥行60cm×幅88cm×高さ45cmの中すう用ケージに10羽, 120日齢まで同大の大すう用ケージに5羽群飼し、以降成鶏用単飼ケージに収容した。なお飲水は、かけ流しの不断給水、ワクチネーションは、当场プログラムにより実施した。

### 2. 試験結果の概要

1) 育成期成績 育成期の体重 (第1表) については制限給餌の開始と共に抑制及び減少が認められたが、制限解除後、飼料摂取量の増加と共に速やかに回復し成鶏組入時には対照区との間に差は認められなかった。71~150日齢までの飼料摂取量は、対照区に比べ、定量区約20%、絶食区10%減少した。また育成率については制限給餌による悪影響は認められなかった。

2) 成鶏期成績 50%産卵到達日齢において対照区に比べ絶食区で3.5日、定量区で6.5日遅れた。また到達時及びその後の卵量については、絶食区は他の区に比し若干軽い傾向を示した。産卵率 (第1図) について絶食区では、産卵の立上りも良く、後半も高いレベルで産卵しており、累計で80.1%と最も良い成績を示し、定量区との間に有意差が認められた。飼料摂取量について定量区、絶食区が対照区より少ない傾向を示したがその差は明らかでなかった。飼料要求率は産卵率と同様な成績となり各区間に差が認められた。成鶏期の体重は各測定日齢とも差はなかった。

第1表 育成期体重及び飼料摂取量

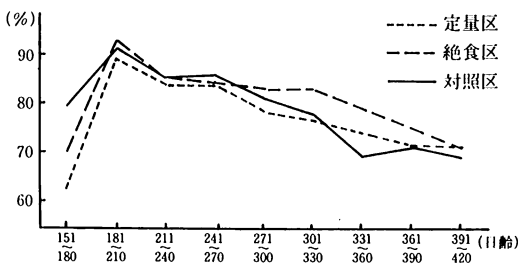
(g)

項目 区分	体 重							飼料摂取量 71~150
	77	91	105	119	133	140	150	
定 量 区	964	971	918	1,161	1,281	1,370	1,565	5,289
絶 食 区	968	1,111	1,208	1,337	1,135	1,358	1,574	5,879
対 照 区					1,484	1,570	1,599	6,495

第2表 成鶏期成績

項目 区分	生存率 (%)	50%産卵日齢 (日)	50%産卵時卵重 (g)	H D産卵率 (%)	平均卵重 (g)	産卵日量 (g)	飼料摂取量 (g)	飼料要求率
定 量 区	96.0	160.5 <sup>b</sup>	52.9	76.3 <sup>b</sup>	62.0	47.3	114.1	2.41 <sup>c</sup>
絶 食 区	99.0	156.5 <sup>ab</sup>	50.8	80.1 <sup>a</sup>	61.1	48.9	114.8	2.35 <sup>a</sup>
対 照 区	100.0	153.0 <sup>a</sup>	51.3	78.4 <sup>ab</sup>	62.3	48.8	116.0	2.38 <sup>b</sup>

注) 異符号間に有意差 (p<0.05)



第1図 H.D.産卵率の推移

### 3. まとめ

以上の結果より、定量給餌による給与飼料制限は育成飼料の節減の効果は大きかったものの、成鶏期における産卵率等で他区に劣った。絶食法は、平均卵重は若干小さかったものの、全期間では産卵率、飼料要求率ともに良く生産性の優れた方法であると思われる。